



生徒が真に心から表現したくなる活動

There is/are ...で自分の町を紹介する

2年生 Unit 6 の新文型導入から Multi Plus 3 の活動まで

肥沼 則明

授業中の活動の中で「生徒が燃える」活動とはどのようなものであろうか。ある一定の時間、教師がタクトを振る中で、生徒がにぎやかに、楽しそうに話している活動であろうか。それも確かに燃える活動の1つといえるとは思いますが、たとえ目に見える生徒の姿が静かでも、生徒が真に心から表現したいという気持ちを目の奥に光らせ、自信を持って仲間の前で発表しているような姿を引き出させることができれば、それこそ真に生徒の「心」を燃やせることができた活動といえるのではないだろうか。

そこで、ここではあえて後者にあたる活動を紹介することにします。

1 There is/are...の活動の面白さ

授業中に導入する新出文型の中には、表現活動に向いているものとそうでないものがある。There is/are...の文型などは後者の1つで、導入のことを考えただけでも、あまり生徒の心を動かせるような方法が見つからないと思ってしまう。それは There is/are...の文という「机の上に本があります」のような場面を思い浮かべるからである。しかし、それをもっと生徒の実生活に近い話題に引き寄せ、生徒一人ひとりに固有な情報を扱う活動に持っていけば、状況は一変する。生徒はこの文型を使いながらも、実に生き生きと自己表現をするようになるのである。

そこで、この文型の最終指導目標を「この文型を使って、自分の住んでいる町を紹介する活動を行う」とし、実際にその授業を平成14年度本校研究協議会で公開した。

実は、そこに至るまでには興味深い過程があった。この、一見すると「表現活動にはそぐわない」と思

われている There is/are...の文型を使って、同僚の久保野りえ教諭が平成12年度の、同じく蒔田守教諭が平成13年度の研究協議会で公開授業を行ったのである。両氏はいずれも最終的に「私の町を紹介する」という活動を行い、参観者の喝采を浴びた。

そうなれば、その翌年は筆者の番である。それには、評判の高い「私の町を紹介する」活動ははずすわけにはいかない。こうして、本校英語科で「My Town 三部作」と呼ばれる授業が実現した。

2 導入の工夫

先述のとおり、There is/are...の文は架空の場面を使ったのでは、導入することはできても、生徒の心は動かさない。そこで、筆者は学校の近くの写真屋に飾られていた都電の写真を拝借する一方で、昭和30年代の都電路線図を手に入れ、それを黒板に拡大表示することで以下の文を扱った。これは、かつては学校のすぐ近くを通る大通りにも都電の線路があったこと、都内全域には多数の路線があったことという驚きを利用したものである。

- ・ How many street car lines **are there** in Tokyo?
- ・ **There is** a street car line in Tokyo. It's the Arakawa line.
- ・ **There were** 41 street car lines in Tokyo about 40 years ago.
- ・ **There is** no street car line on Otowa-dori now, but **there was** a line there 40 years ago.

上記の文例でわかると思うが、この導入（実際には生徒と対話をしながら10分以上かけて導入と口頭

練習をしている)では、後に生徒に使わせたい4つの形をすべて提示している。

3 発展的表現活動への橋渡し練習

新出文型を導入した後すぐに自己表現をさせる授業をよく見かけるが、それでは上滑りな活動をさせることになって、真に力をつく指導とはならない。その視点から導入内容を見ると、表現活動を行わせるには次のような2つの不十分な点がある。

- ・この時点では場面が個別化されていない。
- ・練習文がやや複雑である。

そこで、最終的な活動に入る前に次の2つの練習ステップを踏んだ。

(1) 学校周辺の事柄で全体練習を行う

全員が共有できる場面を利用し、次の文を使って疑問文と平叙文の徹底練習を行った。

- ・ **Is there a police station near our school?**
Yes, there is. It's Otsuka Police Station.
- ・ **Are there any supermarkets near our school?**
- ・ **No, there aren't. There are no supermarkets near our school.**

(2) 自宅周辺の事柄でペア練習を行う

最終的な個別活動へさらに近づけるため、次の文を使ってペア活動をさせた。

- ・ **Are there any convenience stores near your house?**
- ・ **Yes, there are. They are**
No, there aren't.

4 最終活動「私の町を紹介する」

いよいよ最終的な自己表現活動である。ある程度まとまった内容を発表させたいので、原稿を書く作業をさせてから発表させる流れを設定した。

(1) 発表内容の例示

まず筆者が次のような例を示した。

I live in Sayama City. **There is** a big factory near my house. It's the Honda Sayama Factory. **So there are** many Honda cars near my house.... (以下省略)

(2) 原稿執筆

ワークシート(上記例文、使ってほしい表現、内容の留意点等入り)に自分の住んでいる町について紹介する文章を書かせる。その際に大切なことは、クラスメートに紹介したいと思うことを1つ取り上げ、それについて説明する文章を書かせることである。これによって、単なる事実の羅列ではなく、そこに生徒個人の気持ちを表現することができるようになり、生徒の心が燃えるのである。

(3) 発表練習

原稿を単に読んでいるだけでは気持ちのこもった発表はできない。したがって、できあがった原稿を何度も読み、相手に伝えたいと思う気持ちが込められるまで練習させる。

(4) ペア活動

せっかく書いた原稿を誰にも聞いてもらえないのでは意欲がわかない。そこで、その機会を全員に与えるために、ペアで発表させ合った。時間があれば、より大人数のグループ内で発表させたほうがよいであろう。

(5) クラス全体への発表

公開授業では、原稿執筆中に面白い内容を書いていることを確認した2名に発表してもらった。いずれも2人の生徒の人柄が表れている内容で、クラスメート及び参観者から笑い声と満足感の声があがった。

5 本活動のもう1つのねらい

このような活動で大切なことは、指導目標の文型を本当に正しい場面で使えるようにさせることである。本活動は、目標文型以外の文のほうが多くなるような内容であったが、結果的に生徒が書いた文章を読むと、全生徒が目標文型を上手に文章中に入れ込んでいた。それは目標文型のみを羅列できればよいということよりも重要なことである。

(筑波大学附属中学校教諭 こいぬまのりあき)